



Library Liébana

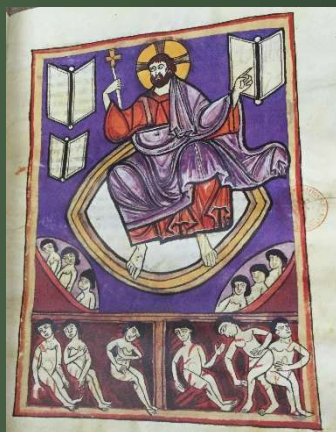
2025年12月度展示内容のお知らせ

【今月の展示写本】

(1) ベアトゥス黙示録写本



(リスボン写本)
1189年



(ナバーラ写本)
12世紀末

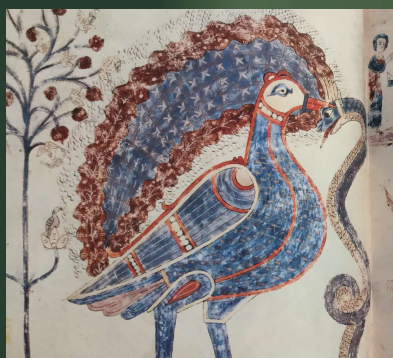


(サン・ジヤン写本)
10世紀第4四半期と
12世紀第1四半期?



(ファクトゥス写本)
1047年頃

(2) その他写本



(ジローナ写本)
975年



(ヴァランシエンヌ黙示録写本)
9世紀初期



(トリニティ黙示録)
1230-50年代

ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

ファクシミリ本とは：
オリジナル写本の大きさや色を再現。
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に
再現した複製本も多数展示しています。

愛知県豊田市西町5丁目5
VITS豊田タウン B1F
(西町5丁目北交差点の
外側階段を降りて下さい)
10:00~16:00

12月の開館日(予定) 水・木・金・日曜日
(HP、インスタで確認下さい)



Google Map



H.P.



Instagram



2025年12月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
1 (休み)	2 (休み)	3 12:00 -15:00	4 13:00 -16:00	5 13:00 -16:00	6 (休み)	7 (休み)
8 (休み)	9 (休み)	10 10:00 -15:00	11 13:00 -16:00	12 10:00 -16:00	13 (休み)	14 10:00 -16:00
15 (休み)	16 (休み)	17 10:00 -12:00	18 10:00 -16:00	19 13:00 -16:00	20 10:00 -16:00	21 10:00 -16:00
22 (休み)	23 (休み)	24 13:00 -15:00	25 13:00 -16:00	26 13:00 -16:00	27 (休み)	28 (休み)
29 (休み)	30 (休み)	31 (休み)	1 (休み)	2 (休み)	3 (休み)	4 (休み)
5 (休み)	6 (休み)	7 (休み)	8 (休み)	9 (休み)	10 (休み)	11 (休み)

12月27日(土)~1月6日(火)はお休み。
12月~3月の開水曜日は15時閉店とさせていただきます。

ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

今月の展示写本

- (1) ベアトゥス黙示録写本 (①②③④⑤)
- (2) その他写本(⑥⑦)

①【ベアトゥス黙示録註解書：リスボン写本】

ポルトガルで制作された写本

特徴は挿絵の地に使われた蛍光色の黄色とオレンジ色です。その古式な描き方から、ベアトゥスの元の原稿に近い古い写本から移されたのかもしれませんが。

②【ベアトゥス黙示録註解書：ナバーラ写本】

12世紀後半にナバーラ地方のラリオハ地方のアストルガで作られたと考えられています。

挿絵の一番の特徴は、なんといっても地に使われている紫色です。

ロマネスク様式を色濃く残しています。

③【ベアトゥス黙示録註解書：サンジヤン写本】

途中まで10世紀後半に書かれ、その後200年近く中断された後12世紀第1四半期に制作が再開された写本。

そのために49点の挿絵がありますが、前半はモサラベ様式の画風で、後半はロマネスク様式となり、挿絵の画風が大きく変わっています。

レコンキスタの進展の影響で、モサラベ様式が薄れたのだと思います。

④【ベアトゥス黙示録註解書：ファクトゥス写本】

13世紀に制作されたラス ウェルガス写本を除くと、修道院ではなく王室の依頼で制作された唯一のベアトゥス写本です。

大きさは他の写本と比較しそれほど大きくはありませんが、全312葉と一番大部な写本になっています。また、金・銀・紫がふんだんに使用され、豪華な挿絵が98点描かれています。

⑤【ベアトゥス黙示録註解書：ジローナ写本】

写本の最後の署名から、976年7月6日におそらくタバラの修道院で完成しました。挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。エンは女性名で修道女と考えられます。このことから女性も写本の制作に参加していたことがわかります。(当時の修道院は男女が厳密に分けられていなかった)

挿絵は、イスラムの影響を受けたモサラベ風の建築物や服装などが多くみられる。幾何学的な形状、豊かな色、装飾された敷地、様式化された人物といった形に、イスラム美術と装飾的伝統が混ざって表現されている。

⑥【トリーア黙示録写本】

9世紀初頭(第1四半期)にフランスあるいはドイツで制作されたカロリングスタイルの黙示録写本。トリーア写本と共に、黙示録の完全なテキストと挿絵を伴う残存する最初期の彩色写本。

挿絵はトリーア写本同様の太い縁取りでおおわれていますが、単色は少なく、いくつかのブロックで色分けされています。ただし、最初の2つの挿絵のみ網目のような模様が入っています。

⑦【トリニティ黙示録】

13世紀半ばに英仏で流行した黙示録の中でも特異な位置にある黙示録。

当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。